

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は国語が大好きで、日本語や日本文化について学び、国語の教員になりたいと考えていました。同志社女子大学は京都にあり、文化的な建築物に囲まれています。京都の文化に直に触れながら学べるというのが決め手でした。

(2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

部活があったので、十分な勉強時間を確保するのが難しかったため、英単語や古文単語などの暗記系を中心にしていました。1日に暗記する単語の1ルマを決めて、どれだけ時間がなくてもそのルマはこぼすようにしていました。繰り返し単語帳を見て、覚えきれていない部分にはふせんを貼し、覚えたらはがすというのを何度もやりました。

〔夏休み〕

夏休みは基礎の固め直しと問題演習をしていました。とにかく基本問題をたくさん解いて、間違えた問題は解説をしっかりと読んで知識を詰めていきました。一度やた問題も時間を置いて、何度も解きました。英語は長文を3回以上音読していました。これによって英文を読む速度が上がり、英語の表現に慣れることができました。古典では原文と現代語を照らしあわせながら内容を確認しました。こうすることで自然と古文単語を覚えられました。

〔2学期～入試直前〕

夏休み後半～入試1ヶ月前までは発展問題をひたすら解きました。解説はすべて熟読し、記憶を定着させました。また、英単語、古文単語もすべて最初からやり直しました。入試の1ヶ月前から過去問を始めました。時間を計って問題を解き、間違えた部分は解説を読んだり、先生に聞きに行ったりして完璧に理解するようにしていました。過去問は10年分以上やりました。毎年の合格最低点をチェックして、この年に受験していたら自分は合格していたのかを確認していました。10年間の合格最低点の得点率を出して、大体どれくらい得点すればいいのかを計算し、目標にしました。過去問も繰り返し解きました。とにかく出題形式に慣れることが大切です。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

勉強をするときは勉強、学校行事や部活は全力で楽しむという風に切り替えを大事にしていました。1時間勉強したら10～15分の休憩をとり、定期的に脳を休ませる時間をつくりました。ずっと勉強し続けるよりも、短時間で集中する方がはるかに効率が良いように思います。スマートフォンについての制限は設けていませんでした。どうしても勉強に気分が乗らない時はスマートフォンで音楽を流しながら勉強していた時もあります。自分が勉強に向かいやすくなるなら、スマートフォンを活用するのも良いのだと思います。スランプの時には得意科目の問題を解いて自信と、正解する感覚を取り戻していました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験期は、かつてない程の我慢とストレスに耐える期間でした。とにかく勉強、勉強、勉強です。しかし不眠や焦りで心が疲れてしまった時には思い切って半日ほど勉強から離れるのもおすすめです。これはただのサボりとは違い、100%の力で勉強をするための次につながる休息です。自分のことを大切にしながら勉強して下さい。健康第一!! 入試当日、私は会場で私が一番賢いんだ!!と自分に言い聞かせていました。皆緊張しているので、これくらいの気持ちを持って丁度いいくらいです。